



參考資料

バイオ戦略における経緯①

- ◆ 2019年6月、「バイオ戦略2019」では、全体目標である「世界最先端のバイオエコノミー社会」とは、以下の三つの要素が実現している状態を想定

① バイオフィースト発想

- ・ 持続可能な生産と循環によるSociety 5.0の実現のために、バイオについての倫理的・法的・社会的問題について議論できる環境の下、まずバイオでできることから考え、行動を起こせる社会を実現

② バイオコミュニティ形成

- ・ 経営者をはじめ社会を主導する立場の者から市民に至るまでバイオフィースト発想が根付き、国際連携・分野融合・オープンイノベーションを基本とし、世界のデータ・人材・投資・研究の触媒となるような魅力ある国際的なコミュニティを形成
- ・ 国際的なコミュニティが中核となり、各地域とのネットワークが構築され、ヒト・モノ・カネの好循環が生まれ、各々特色あるバイオによる持続可能な循環型コミュニティ・健康的な生活を送れるコミュニティを形成
- ・ これらのコミュニティ群を、我が国のバイオエコノミー社会の姿として世界に示し、国内外から共感される「バイオコミュニティ」モデルを世界展開

③ バイオデータ駆動

- ・ バイオとデジタルの融合により、生物活動のデータ化等も含めてデータ基盤を構築し、それを最大限活用することにより産業・研究が発展
- ・ 国際標準となる測定法・測定機器を生産システムに組み込み、世界で一番生物の活動をデータにできる国を実現

- ◆ また、過去のバイオ分野の戦略を総括した反省点の一つとして、「戦略への産官学の連携的コミットの欠如(KPIなし、不十分なフォローアップ)」を挙げた

バイオ戦略における経緯②

◆ そこで、全体目標の設定と合わせ、

- ✓ 2019年度中に、継続的に**戦略全体の状況を把握するKPI**(具体的施策の実行状況を評価するための定量的指標)について、その**データ取得体制、国際情勢等を含め官民で検討し、設定**すること
- ✓ 2019年度中に、バイオ戦略に基づき、**KPIを設定した市場領域ごとのロードマップを策定**すること

を目指すこととしつつ、バイオ戦略のKPIの設定に当たっての課題として、以下の2点を指摘

- ① 民間出版社が毎年集計しているバイオ関連市場規模は、**範囲を狭く捉えている**
- ② バイオ分野の雇用、投資額、バイオベンチャーの時価総額等を**持続的に把握する社会システムが存在しない**

◆ さらに、2020年1月の有識者提言において、定量評価・定性評価からなる全体目標の評価が提案されたことを受け、2020年6月、「バイオ戦略2020(基盤的施策)」では、以下を掲げた

- ✓ バイオ戦略は、**全体目標の評価、市場領域ロードマップの推進・更新、バイオコミュニティの認定、各種ガイドラインの策定を相互に連携**させることにより推進すること
- ✓ 全体目標の評価について、**KPIを設定し、定量面、定性面から有識者会議で評価を実施**すること
- ✓ 2021年度半ばまでに**全体目標の評価スケジュールを策定**すること
- ✓ 2021年度半ばまでに、業界団体等の参画を得た上で、評価に用いる**指標の把握体制・方法・頻度を含む具体的な評価方法について、バイオ戦略タスクフォースでの検討**を経た上で、具体的な評価方法について**有識者会議で決定**すること

◆ その後、市場領域ロードマップを2021年1月に策定するとともに、「バイオ戦略2020(市場領域施策確定版)」では、

- ✓ バイオ戦略については、フォローアップを行い、その結果を踏まえ、**毎年見直しを行い、更新**すること

を掲げた上で、2021年6月、「バイオ戦略フォローアップ」において、全体目標の評価や市場領域ロードマップの更新について、以下のとおり整理したところ

バイオ戦略における経緯③

(1) 全体目標の評価

① 概要

- ・ **【維持】** 全体目標の評価は有識者会議において、定量面、定性面から実施。【科技】
- ・ **【維持】** 2021年度半ばまでに全体目標の評価スケジュールを策定。【科技】
- ・ **【維持】** 資金配分機関等において、バイオ分野の評価、検証が可能な体制整備を促進。【科技】

② 定量面の評価

- ・ **【変更】** 2021年度中に、市場領域ロードマップの更新と合わせ、業界団体等の参画を得た上で、エビデンスシステム（e-CSTI）等も活用し、定量面の評価に用いる指標の把握体制・方法・頻度を含む具体的な評価方法について、バイオ戦略タスクフォースでの検討を経た上で、具体的な評価方法について有識者会議で決定。【健康医療、科技、農、経】

〔指標例〕

- 我が国のバイオエコノミー市場規模（国内生産相当額（輸出を含む）及び我が国企業の海外生産相当額の推計）
- 各市場領域の市場規模^[1]
- バイオ分野の投資額
- バイオ分野の雇用人数
- 国際連携（バイオ分野の主要展示会の海外参加企業数）
- 企業のバイオ戦略認知度（グローバルバイオコミュニティ及び地域バイオコミュニティに参画している企業数）

③ 定性面の評価

- ・ **【変更】** 2021年度中に、市場領域ロードマップの更新と合わせ、業界団体等の参画を得た上で、エビデンスシステム（e-CSTI）等も活用し、定性面の評価に用いる情報の把握体制・方法・頻度を含む具体的な評価方法について、バイオ戦略タスクフォースでの検討を経た上で、具体的な評価方法^[2]について、有識者会議で決定。【健康医療、科技、農、経】

〔情報例〕

- グローバルバイオコミュニティ及び地域バイオコミュニティのネットワーク機関が行う各機関の評価・認定の状況
- 市場領域ロードマップの推進状況

(2) 市場領域ロードマップの更新

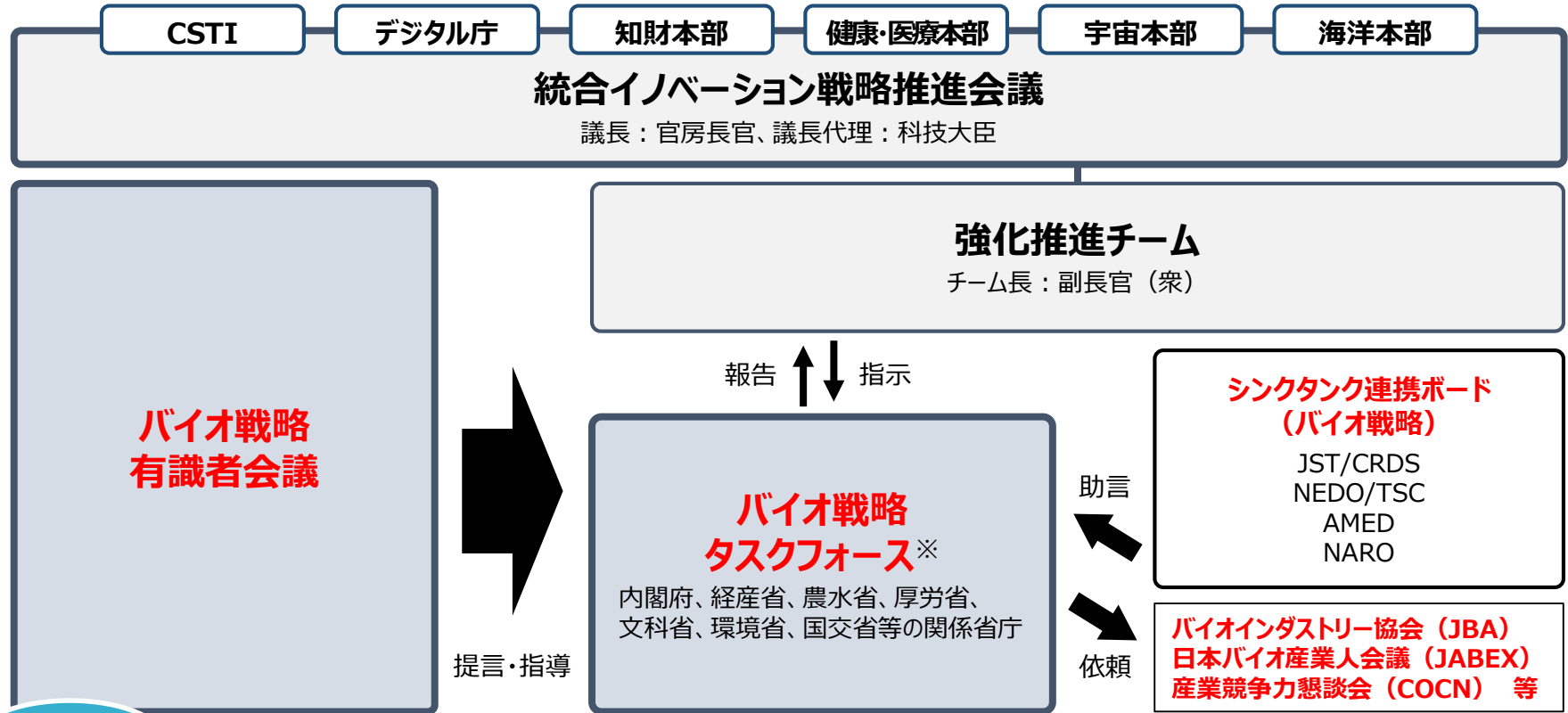
- ・ **【変更】** バイオ戦略に基づき策定した市場領域ごとのロードマップについて、EBPMを徹底する観点から、目標やKPIと成果のギャップを明確にした上で、その要因を分析し、目標を達成するストーリーの予見性の更なる向上につながるよう、今後取り組むべき事項の精査・重点化等を図る^[3]。【健康医療、科技、文、厚、農、経、国、環】

^[1] 各市場領域ロードマップのフォローアップで用いられるデータを利用。

^[2] バイオフィースト発想、バイオコミュニティ形成、バイオデータ駆動の観点からの評価を想定。

^[3] 市場領域ごとに過度な縦割りとならないよう留意の上、複数の市場領域について一体的に検討を行うこともあり得る。

バイオ戦略の検討体制



構成員

※必要に応じ、有識者会議構成員の参加、同構成員以外からのヒアリング等を活用



座長：永山 治
一般財団法人
バイオインダストリー協会
理事長



小林 憲明
元キリンホールディングス（株）
取締役常務執行役員



永井 良三
自治医科大学
学長



藤田 朋宏
（株）ちとせ研究所
代表取締役CEO、
京都大学特任教授



吉澤 尚
GRIT Partners
法律事務所
所長弁護士

検討経過

2021年

9月1日

バイオ戦略有識者打合せ

⇒ 「検討の方向性(たたき台)」について議論

12月15～24日

バイオ戦略タスクフォース関係省庁との調整

⇒ 「検討の方向性(たたき台)」について意見照会

⇒ これに必要な修正を加え、「基本的考え方(素案)」を準備

2022年

3月10日

バイオ戦略タスクフォース

⇒ 「基本的考え方(素案)」を基に、更に議論

⇒ 2022年度のバイオ戦略のフォローアップに議論状況を反映

4月4日

バイオ戦略有識者会議

⇒ 「基本的考え方(案)」を基に、更に議論

⇒ 「基本的考え方」を決定

※ 今後はタスクフォースにおいて、柔軟な見直しを可能とする